

一般質問

9月定例会



内藤 眞一議員

Q救急体制の
広域化は

角井地区は最も近い志学診療所・大田市立病院を利用することが多い。
このたび志学診療所が閉鎖されたが、大田圏域の救急車を利用できないか。



飯南消防署

A圏域があり困難

町長 山崎 英樹

消防組織が一体化してないため、消防署ごとの運用になつていて。

指揮命令系統が違つたため、圏域を越えて利用はできない。今後の課題としていく。

Q鳥獣被害防止
対策は

今年度の鳥獣被害は昨年以上で、町民が襲われる事案も発生した。現在までの被害状況と被害額を問う。
また、猟友会会員への手当増額や各自治会へへの支給を取り組むべきではないか。

A活動環境を
整えた

町長 山崎 英樹

被害状況は、現在、ノイサイ損害評価委員が調査中のため把握していない。

昨年度は水田被害が102枚で952アール。共済金額ベースで297万円であったが、今年度はさらに増加すると思つていて。

クマの目撃や錯誤捕獲は8月末で22件発生している。

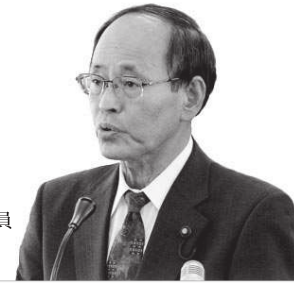
猟友会新規会員確保対策の制度化、鳥獣被害対策実施隊隊員の身分保障、公務災害の適用等、安心して活動できる環境を整えた。

捕獲体制や侵入防止対策の資材費の助成は、捕獲体制の実効性を高めることに努め、来年度の国の交付金確保に全力で取り組む。



一般質問

9月定例会



長島 正一 議員

Q飯南米ブランド
確立を

米価が引き上げられたが、採算のとれない経営が続いている。

カントリーエレベーターが完成し、飯南米ブランドの確立により米価アップが期待されているが、どの様な戦略を考えているのか。

道の駅や小売店などへポスター広報や協力店看板などの設置で、まず地元でのPRに力を入れるべきではないか。

A消費者アピール
を徹底

町長 山崎 英樹

コメの品質と飯南のイメージが大切との声から、大しめ縄や森林セラピー等と合わせてPRしていく。

関東では高評価なので、東京島根県人会員に広報チラシなどを配布する。

また、広島県の女性に試食調査を実施し、販売に努める。さらに、食味分析鑑定コンクールにも参加する考えだ。PRは、ご指摘のように、まず足元から進めていく。

Q介護サービスの
行方は

国は在宅介護を重視し、訪問介護を増やす方針だ。一方、介護報酬は減額され、職員への影響が心配される。

施設は、職員確保等、持続的経営に不安を抱えている。地域で支える医療や介護の仕組みが求められているのではないか。

A職員の福祉施設
派遣を検討

町長 山崎 英樹

医療・介護の現場では人材確保が困難で、就学助成制度を創設し人材確保に努めているが、解消されていない。

制度の拡充と共に、職員の派遣も検討していく。

Q地方創生の
まちづくりは

全国の自治体が「総合戦略」策定に取り組み、自治体間の競争が始まっている。
飯南町は、どこに視点を置くのか。



まちぐるみで子供を育てる

A「年少人口の維持・
安定」を基本に

町長 山崎 英樹

まちぐるみで子供を育てる機運を高める。

目標達成に向け、「若い世代の結婚・出産・子育ての希望を叶える」「本町への人の流れをつくる」「生き生き暮らせる仕事をつくる」「安心・快適に暮らせるまちをつくる」の政策を展開する。

Q交流物産館、
今後の展開は

交流物産館は、当初計画を大きく下回る状況が続いている。原因は農産物出荷量が少ないことにある。出荷農産物の全量買取などの対策が必要ではないか。

A運営体制を強化

町長 山崎 英樹

現状は前年を下回り厳しい状況にあり、情報発信や運営体制の強化に努める。

2周年イベントや年末商戦に向け、生産者に参画いただき、戦略を組み立てる。